

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 夢を実現する「夢創造館」（「職工学校」時代以来の「ものづくりは人づくり」の理念を踏まえ、自主・自立を重視して、自ら夢に向かって意欲的に「創造」できる場を提供し、確かな進路実現力のある工科高校）として、ものづくりの知識や技術及び技能の活用力と論理的思考力を兼ね備えた「将来のエンジニア」を育成する。そのため、次の4項目を重点に生徒育成を行う。
- 1 将来を見据えた専門的な資格取得をめざし、リーディング工科高校として日本のものづくりを支える人材に必要な資質・能力を育成する。
 - 2 基本的な生活習慣、学びに向かう態度の育成を行う。
 - 3 心身の健康と体力の向上、社会人基礎力を身に付けた生徒を育成する。
 - 4 時代の変化に対応し、新しい価値を創出できる人材となるべく、ものづくりの知識や技術及び技能の活用力と論理的思考力の育成を行う。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
 - (1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組み。
 - ア 授業見学を奨励し、公開授業・研究授業・授業アンケート等を活用し、授業改善に取り組む。
授業でのICTを活用した主体的・対話的な学びの実現について推進し、学力の向上を図る。
 - イ 教育産業の基礎学力調査を実施し、各学年の学習状況と経年変化を把握し、学習指導の向上を図る。
 - ※ 教員向け学校教育自己診断の設問35「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。」の肯定率を令和10年度には75%以上を維持する（R5 65.9%, R6 79.6%, R7 75.6%）。
 - ※ 授業アンケートの質問5（教材活用）結果の2回平均を令和10年度には3.57以上にする（R5 3.52, R6 3.54, R7 3.55）。
 - ※ 教員向け学校教育自己診断の設問16「学習指導や教材について精選・工夫を行っている。」の肯定率を令和10年度には92%以上を維持する（R5 86.7%, R6 92.0%, R7 92.5%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問25「授業中の態度は良好である。」の肯定率を令和10年度には90%以上をめざす（R5 85.1%, R6 90.0%, R7 89.0%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問23「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。」の肯定率を令和10年度には85%以上をめざす（R5 79.4%, R6 87.0%, R7 84.8%）。
 - ※ 基礎学力調査における全学年平均（1,2年2回、3年1回）のGTZ平均値(国数英)のC1ランク以上を令和10年度には44%以上にする（R5 41.8%, R6 44.7%, R7 37.8%）。
 - (2)工科高校の特徴を生かした授業により、生徒の育成を図る。
 - ア PBL（課題解決型学習）手法を取り入れた学習を1年「キャリアデザイン」、2年「総合的な探究の時間」、3年「課題研究（合同班）」で行い、課題を解決していく過程で様々な能力を育成する。
 - イ 各系課題研究発表会及び合同課題研究発表会を実施する。
 - ※ 授業アンケートの質問9（生徒意識2）[知識・技術の習得]結果の2回平均を令和10年度には1年「キャリアデザイン」は3.52以上（R5 3.44, R6 3.50, R7 3.51）、2年「総合的な探究の時間」は3.57以上（R5 3.56, R6 3.49, R7 3.59）、3年「課題研究（合同班）」は3.72以上（R5 3.65, R6 3.62, R7 3.75）を目標とする。
 - ※ 授業アンケートの質問1～9の2回平均を令和10年度には1年「キャリアデザイン」は3.57以上（R5 3.49, R6 3.56, R7 3.60）、2年「総合的な探究の時間」は3.58以上（R5 3.59, R6 3.51, R7 3.58）、3年「課題研究（合同班）」は3.73以上（R5 3.71, R6 3.65, R7 3.76）を目標とする。
 - ※ 課題研究合同発表会の生徒アンケート「映像・音声の伝わり方」の肯定率を令和10年度には65%以上にする（R5 60.4%, R6 67.7%, R7 57.7%）。
 - 2 夢と志を持つ生徒の育成
 - (1)豊かでたくましい人間性の育成。
 - ア いじめ対応や教育相談体制の充実を図り、生徒の支援を行う。
 - イ あらゆる教育活動において人権教育を推進し、生徒の育成を図る。
 - ウ 生徒に基本的な生活習慣であるマナーの向上とルールを厳守させ、あいさつの励行や遅刻の減少を推進し、中退防止に努める。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問22「いじめをなくし、防止しようとしている。」の肯定率を令和10年度には87%以上を維持する（R5 83.4%, R6 87.2%, R7 86.2%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問16「保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率を令和10年度には65%以上を維持する（R5 62.8%, R6 68.6%, R7 61.3%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問1「学校生活は満足している。」の肯定率を令和10年度には87%以上にする（R5 85.8%, R6 85.6%, R7 82.5%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問21「人権の大切さを学ぶ機会がある。」の肯定率を令和10年度には87%以上をめざす（R5 82.5%, R6 88.2%, R7 86.1%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問17「校内では規則・ルールが守られている。」の肯定率を令和10年度には94%以上をめざす（R5 91.2%, R6 94.1%, R7 91.1%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問26「校内では挨拶がかわされている。」の肯定率を令和10年度には97%以上を維持する（R5 94.6%, R6 97.8%, R7 97.3%）。
 - ※ 遅刻率を令和10年度には0.78回以下を維持する（R5 0.85回[470件/554人], R6 0.67回[395件/593人], R7 0.62回[392件/630人]）。
 - ※ 中退率を令和10年度には1.0%以下を維持する（R5 1.81%[10/554人], R6 0.51%[3/593人], R7 1.90%[12/630人]）。
 - ※ 保護者向け学校教育自己診断の設問1「今工に入学させて良かった。」の肯定率を98%以上にする（R5 98.3%, R6 97.3%, R7 94.4%）。
 - ※ 保護者向け学校教育自己診断の設問3「今工は保護者の願いにこたえている。」の肯定率を94%以上を維持する（R5 94.9%, R6 95.1%, R7 88.0%）。
 - ※ 保護者向け学校教育自己診断の設問8「今工の生徒指導の方針に共感できる。」の肯定率を88%以上をめざす（R5 92.4%, R6 84.6%, R7 81.1%）。
 - (2)生徒の自己実現に向けた支援を図る。
 - ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア・パスポートの活用も含めてキャリア教育・職業教育の充実を図るとともに、様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。
 - イ きめ細かな進路指導を行い、就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図る。
 - ウ 卒業3年後の離職率調査を継続し、就職指導を充実させる。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問28「今工生であることに誇りを持っている。」の肯定率を令和10年度には73%以上を維持する（R5 70.3%, R6 77.2%, R7 68.1%）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問29「平日の授業以外での学習の時間はどれくらいですか（補習・塾等含む）。」の1時間以上を令和10年度には21%以上を維持する（R5 23.5%, R6 18.3%, R7 17.4%）。
 - ※ 資格取得率を令和10年度には75%以上を維持する（R5 85.4%[473件/554人], R6 65.8%[390件/593人], R7 81.1%[511件/630人]）。
 - ※ 3年生のSPIテスト（総合点80点満点）結果を、令和10年度には全国平均の1.19倍以上にする（R5 1.18倍[60.7点/51.6点], R6 1.13倍[57.5点/50.9点], R7 1.18倍[学校51.4点/全国43.7点]）。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問13「進路の情報をよく知らせてくれる。」の肯定率を令和10年度には95%以上を維持する（R5 94.4%, R6 95.3%, R7 94.6%）。
 - ※ 就職一次内定率87%以上を目標とする（R5 93.7%, R6 88.5%, R7 88.2%）。
 - ※ 進路実現度100%（就職率・進学率）を目標とする（R5 99.3%(99.1%・100%), R6 98.8%(99.2%・97.7%), R7 98.4%(98.7%・97.3%)）。
 - ※ 離職率20%以下を目標とする（R5 [R2.3卒] 18.3%, R6 [R3.3卒] 25.7%, R7 [R4.3] 24.9%）。

3 安全安心で魅力ある学校づくり	
(1) 工科高校の魅力を発信し、志願者の安定的確保を図る。 ア 出前授業や地域連携等を積極的に行い、広報活動に努める。 イ 中学校訪問や学校説明会の充実を図り、工科高校の魅力発信に努める。 ウ 入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。 ※ 出前授業や地域連携等を令和10年度には20回以上参加を維持する (R5 17回,R6 21回,R7 22回)。 ※ 生徒の出身中学校訪問を令和10年度には25人以上参加をする (R5 16人,R6 21人,R7 61人)。 ※ 教員の中学校訪問を年間80校以上実施する (R5 58校,R6 112校,R7 88校)。 ※ 学校説明会(年度末の個別相談含む)を年間40回以上を参加・実施する (R5 37回,R6 46回,R7 52回)。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の設問27「校内では、清掃がいきとどいている。」の肯定率を令和10年度には87%以上を維持する (R5 82.4%,R6 86.8%,R7 85.9%)。 ※ 教員向け学校教育自己診断の設問27「この学校では、清掃がいきとどいている。」の肯定率を令和10年度には84%以上を維持する (R5 73.3%,R6 84.0%,R7 90.2%)。 ※ 全体の志願者倍率(全体〔総合募集・工学系〕)を、毎年1倍以上確保する (R6入試 1.04倍 [1.06倍・0.94倍],R7入試 0.93倍 [0.93倍・0.91倍],R8入試 0.95倍 [0.98倍・0.77倍])。	
(2) 生徒の潜在能力を高め、部活動を含めた様々な大会で成果を出し、近畿大会や全国大会で上位入賞をめざす。 ア 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。 イ 課題研究や部活動等の大会を通じて、上位入賞をめざす。 ※ 部活動加入率を令和10年度には58%以上を維持する (R5 53.0%,R6 58.4%,R7 64.0%)。 ※ 全工協会のコンテストや部活動等で近畿大会・全国大会へ出展・出場して6件以上の入賞をめざす (R5 7件：グラフィックデザイン系・工学系・日本拳法部・放送部・鉄道研究部・ペタンク部・アーツ&クラフツ部,R6 6件：グラフィックデザイン系・工学系・日本拳法部・放送部・鉄道研究部・ペタンク部,R7 6件：グラフィックデザイン系・工学系・日本拳法部・放送部・鉄道研究部・ペタンク部)。	
(3) PTAや保護者からの要望を踏まえて改善を図る。 ※ 保護者向け学校教育自己診断の設問13「今工は、教育情報(系選択や修学旅行、進路情報、学校行事など)の情報を提供する努力をしている。」の肯定率を令和10年度には92%以上を維持する (R5 97.5%,R6 87.1%,R7 96.7%)。 ※ 保護者向け学校教育自己診断の設問14「学校行事(体育祭・文化祭)に参加したことがある。」の肯定率を令和10年度には72%以上を維持する (R5 64.4%,R6 77.4%,R7 69.9%)。	
4 働き方改革の推進	
(1) 「より働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック結果を踏まえて安全衛生委員会で議論を行い、改善策は図っていく。 ※ ストレスチェック結果における「仕事の量的負担・コントロール度、職場のサポート、総合健康リスク」を、毎年基準値(100、100、100)以下を目標にする (R5 100、105、105,R6 101、100、101,R7 99、92、91)。	
(2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」・「大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」などを踏まえ、教職員の健康管理体制を充実させる。 ア 業務量管理の徹底を図り、在校等時間外の縮減を図る。 イ 仕事と生活の調和の取れたワークライフバランスを推進する。 ※ 教員の年間1人当たり平均の在校等時間外を毎年360時間以内に抑制する (R5 295.1時間,R6 288.4時間,R7 304.1時間)。 ※ 教員の年間1人当たり平均の在校等時間外360時間以上の人数を令和10年度には5人にする (R5 26人、R6 23人、R7 23人)。 ※ 教員の年間1人当たり在校等時間外の年間720時間以内を令和10年度にはゼロにする (R5 0人,R6 1人,R7 4人)。 ※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月45時間以上を令和10年度には5人にする (R5 30人,R6 24人,R7 31人)。 ※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月80時間以上を令和10年度にはゼロにする (R5 3人,R6 2人,R7 6人)。 ※ 教職員の年次有給休暇の年間平均取得日数を16日以上を堅持する (R5 17.0日,R6 16.9日,R7 16.0日)。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組み ア 授業改善と授業のICT化による学力向上	ア・授業見学の機会を促進し、指導方法等の改善を図る。 ・教材活用にICT機器の利用を推奨し、授業アンケート結果の向上を図る。 ・各教科で授業アンケート結果を検証した結果を基に、PDCAサイクルによる向上を図る。 ・様々な機会を通じて授業態度について啓発を行い、向上を図る。 ・各教科でICT機器を活用して発表するなどの場面を計画・実施し、向上を図る。	※ <u>評価指標値は、3年間の平均を基に算出</u> <u>よって、評価指標値は、[R7年度値]より低い場合がある</u> ア・教員向け学校教育自己診断結果「授業見学への機会」への肯定率74%以上[75.6%] ・授業アンケート質問5(教材活用)結果の2回平均3.55以上[3.55] ・教員向け学校教育自己診断結果「指導・教材の工夫等」への肯定率91%以上[92.5%] ・生徒向け学校教育自己診断結果「授業態度」への肯定率89%以上[89.0%] ・生徒向け学校教育自己診断結果「考えのまとめ、発表の機会」への肯定率85%以上[84.8%]	
	イ 基礎学力調査の学習状況と経年変化による指導向上	イ・国数英の基礎学力調査結果を教科で検討し、課題を踏まえて学習指導の向上を図る。	イ・基礎学力調査の全学年平均C1ランク以上42%以上[37.8%]	
	(2)工科高校の特徴ある授業による生徒育成 ア PBL手法を取り入れた学習による	ア・PBL手法を取り入れた「キャリアデザイン」、「総合的な探究の時間」、「課題研究(合同班)」	ア・授業アンケート質問9(生徒意識2)[知識・技術の習得]	

府立今宮工科高等学校

校づくり	ウ 入学者選抜の志願者確保 (2) 部活動を含む大会での上位入賞 ア 部活動加入の推奨 イ 課題研究・部活動等の上位入賞 (3) 保護者の要望を踏まえた改善	・教職員に職場環境の維持・改善を図る5Sを推進し、学校美化を指導させる。 ウ・上記ア、イの取組みを図り、入学者選抜の志願者倍率を確保する。 ア・新入生にクラブ説明会を実施し、体験期間を設け、1年担任からも加入を推奨させる。 イ・課題研究や部活動等で近畿大会や全国大会に出品・出場して上位入賞をめざす。 ・系選択、修学旅行、進路情報、学校行事などの情報提供を図る。 ・参加しやすい授業参観や学校行事等の工夫を図る。	85%以上[85.9%] ・教員向け学校教育自己診断結果「校内清掃」への肯定率83%以上[90.2%] ウ・全体の志願倍率1倍以上[0.95倍] ア・部活動加入率57%以上[64.0%] イ・様々な大会で6件以上の入賞[6件] ・保護者向け学校教育自己診断結果「必要な情報を提供する努力をしている」への肯定率90%以上[96.7%] ・保護者向け学校教育自己診断結果「授業参観や学校行事等に参加したことがある」への肯定率71%以上[69.9%]	
4 働き方改革の推進	(1) ストレスチェック結果を踏まえた改善 (2) 教職員の健康管理体制の充実 ア 在校等時間外の縮減 イ ワークライフバランスの推進	・ストレスチェック結果を踏まえて安全衛生委員会で議論し改善を図る。 ア・在校等時間外の教員の年平均を360時間以内に抑制する。 ・在校等時間外年360時間以上の教員数を縮減する。 ・在校等時間外年720時間以上の教員数をゼロにする。 ・在校等時間外月45時間以上の教員数を縮減する。 ・在校等時間外月80時間以上の教職員を縮減する。 イ・年次有給休暇の年間平均取得日数を16日以上堅持する。	・仕事の量的負担・コントロール度、職場のサポート、総合健康リスクを基準値(100、100、100)以下[99、92、91] ア・在校等時間外年平均360時間以内[304.1時間] ・在校等時間外年360時間以上を20人以内[23人] ・在校等時間外年720時間以上を0人[4人] ・在校等時間外月45時間以上を20人以内[31人] ・在校等時間外月80時間以上を2人以内[6人] イ・年休平均取得日数を16日以上[16.0日]	